

さかど

ロイヤルの園だより

発行
(福)栄光会
さかどロイヤルの園
坂戸市大字森戸739-1

「初日の出」

一層瑠璃のくんだり
介護職員

一月一日の早朝、ご入居者の方々と初日の出を見ました。一層では、初日の出を見ることが毎年恒例となっていて、今年も初日の出の予定時刻は六時五十三分頃となっており、六時半過ぎ頃から各居室の方にお声がけをし、初日の出をご覧になりたい方、五名が集まり、四層のホールへエレベーターで向かいました。「楽しみだね」「天気大丈夫かしら」などと会話を交えながらホールへ行き、外を見ると雲が掛かっていましたが、徐々に日が出てきました。予定時刻より二〇分ほど遅れて、まんまとした初日の出が見えました。拝んでいる方や「綺麗だね」と言われ喜んでいたり、感動している方がおり、それぞれの思いや感じ方が伝わってくる一面でした。私自身も初日の出を見たのは、人生で二回目でしたが、やっぱり初日の出は一味違うなと感じ、良い新年のスタートを切ることができました。

「三年間を振り返って」

二層瑠璃のくんだり
介護職員

特養で介護職として働き始めてもうすぐ三年が経ちま

す。介護福祉士の資格を持って入職しましたが実際の現場では夜勤や入浴、排泄、食事介助など、教科書通りにいかない場面も多く日々経験を積み重ねてきました。ご入居者一人ひとりの身体状況や気持ちに寄り添った声かけや対応の大切さを、現場を通して学んだと感じています。忙しい業務の中でも、「ありがとう」「安心する」といった言葉をいただくことがあり、その一言が大きな励みになっています。また、大変さを感じる場面もありますが、ご入居者の生活を支えるやりがいのある仕事だと実感しています。

来年度は、これまでの経験を活かし、より落ち着いた対応を心掛けながら、周囲と協力して安心できるケアを提供していきたいです。今後も成長を続けていけるよう頑張っていこうと思います。

「異動して」

三層鶉のくんだり
介護職員

昨年の四月に二層瑠璃から異動し、十カ月が経ちました。ご入居者とうまく関係がつけられるだろうか…私を受け入れてくれるだろうか…不安でいっぱいでした。ユニットのドアを開け、見慣れぬ風景…「よし」と気合いを入れ挨拶をすると、笑顔で手をあげ、応えてくださるご入居者がいらつしゃいました。心がふわっと軽くなり、自然と笑顔になりました。「ご入居者とのコミュニケーションを図るためにたくさんお話しをさせていただきました。色んなお話も聞け、その方を知れば知るほど、もっと心に寄り添いたいという思いが強くなります。」

これからも、たくさんお話しをし、一緒に歌をうたったり、手をつないで歩いたり、楽しく過ごしていきたいと思っています。

「新年会」

二層鶉のくんだり
介護職員

新年会は、新しい年を迎えて人々が集い、健康や繁栄を祈りながら食事やお酒を楽しむ行事です。現在では職場や地域、友人同士で行われることが多いですが、もともとは神様への感謝と人の絆を確かめる儀式だったそうです。その起源は平安時代にまでさかのぼり、日本最古の新年会の原型は、平安貴族が行った「年賀の宴」だそうです。元旦や正月中に、貴族たちが朝廷で新年を祝い、お酒を酌み交わしながら詩歌を詠み、豊作や平穏を祈る行事だったようです。この時代から「宴」神への感謝+人との交流」という形が確立していったようです。江戸時代になると商人や町人の間でも新年会が一般化し、現代では新年会は「人間関係を深める社会的行事」として定着したようです。その根底にあるのは「感謝」「団らん」「祈り」という日本人の心です。また、「縁を結び直す」という日本ならではの文化的特徴です。「今年もよろしくお願いします」という挨拶には、感謝と信頼を新たにする意味が込められています。時代が変わっても言葉や交わり、食を分かち合うその瞬間に日本人の「和を尊ぶ心」が息づいています。一年のはじまりに人と人が笑顔で集う、それが何百年も続く日本の新年会の本質なのです。

二層亜麻・鶉のくんだりでも先日、新年会を行いました。ご入居者が絵馬に今年の抱負を記入され、練り切りと甘酒を召し上がりながら他者との交流を深めました。一年のはじまりに笑顔で集うことができたと思います。

「違い」

三層浅緑のくんだり
介護職員

お正月恒例の箱根駅伝をご覧になっている方も多いのではないのでしょうか。各大学の選手が切磋琢磨をして走っている姿はドラマティックであり、見ごたえがあるものだと思います。

駅伝を走るとの選手、どこの大学も毎日、厳しい練習をしているはずで、その中でも勝つことができる大学、出場できる選手、出場できない選手がいるわけで、そこには何か違いがあるのではないかと思います。走る以外に、生活習慣、食事、体調管理、心掛け、考え方、色々な要素が重なって違いが生じているのではないのでしょうか。

私が日々走っている場所で時々、大学生の選手が走っているのを見かけますが、走る姿が綺麗で無駄がなく、力が入っていないように見えます。テレビで見ると、さほど早そうには感じないのですが、実際に走っている姿を近くで見ると、とても速いです。効率の良い動きをしているのでしょうか。

生まれた時の違いは小さなものであっても、日々の積み重ねによって大きな差になり、それが本番で結果に現れるものだと思います。スポーツに限らず、日々の積み重ねを大切に考えていきたいと思えます。

「初詣」

事務所
介護課長

新年あけましておめでと〜うございます。本年もよろしくお願いたします。

私は初詣に必ず行くようにしています。子ノ権現、八幡神

社、明治神宮、浅草寺、三峰神社、高麗神社、佐野厄除け大師等、初詣に行く場所のこだわりはありませんが初詣に訪れています。

私はつい近年まで初詣のお参りの際には、一年間の願いを欲張ってお願していました。しかし、初詣は願う場ではなく誓う場であるべきと友人から教えられました。自分でも調べたところ、初詣の本来の目的は、新年を迎えるにあたって自分の心を整え、神様に誓うことだそうです。願いを行うことも決して間違いではないようですが、前年を無事に過ごしたことの感謝の気持ちも伝え、その上で自分の決意を神様に示すことが大切で、神様との契約を交わすような意識を持つこと、とのことでした。

そのことを理解してからは、初詣に行った際は、「一年無事に過ごさせて今ここにいらる事の感謝」「今年一年間は、どう生きていくかの宣言」と「少しばかりのお願い」を伝えるようにしています。

今年も家族で初詣に行き、今年一年良い年になるように伝えてきました。

「楽しみな映像特典」

四層鴉のくんだり
介護職員

昨今の映像作品は、私たちの暮らしにそっと寄り添う存在になってきたように思います。映画やドラマ、そしてアニメは劇場やテレビだけでなく、配信サービスを通じて気軽に楽しめるようになり、物語との距離がぐっと近づきました。映像技術の進歩により、風景や表情の細やかな変化まで美しく描かれ、日常の一瞬さえ特別に見せてくれます。また、大きな出来事を描く作品だけでなく、目には見えない心の揺れといった小さな物語が共感を集めているのも特徴です。忙しい日々の中で、映像作品は気持ちを整え、明日への小さな元気をくれる存在として、これからも私たちのそばにあり続けるでしょう。

「二月の様子」

